

2024年7月期

決算説明資料

2024年9月12日

プレミアアンチエイジング株式会社

東証グロース 4934





01 | エグゼクティブ・サマリー

02 | 2024年7月期実績

03 | セグメント別の状況

04 | サステナビリティ

05 | 2025年7月期業績予想

06 | 参考資料



## 01 | エグゼクティブ・サマリー

## ■ エグゼクティブ・サマリー

### 【2024年7月期実績】

- ✓ 売上高は、アンチエイジング事業が苦戦し減収となるも、計画に対してはインラインで進捗し目標を達成
- ✓ 営業利益は、主に販売費の効率運用や事業規模に合わせた変動費・固定費の適正化に加え、リカバリー事業の利益伸長により、前期実績・通期計画を上回り黒字を計上

### 【中期経営計画「2024-2027 +Beyond」の取り下げと今後の方針】

- ✓ 中期経営計画初年度の実績を踏まえ、2027年7月期の定量目標を取り下げ
- ✓ 新しい中期的な財務KPIは、経営環境を総合的に分析・検討した後、準備ができ次第公表予定

### 【2025年7月期業績予想】

- ✓ 2025年7月期は減収・増益を見込む
- ✓ 厳しい事業環境下において、成長に必要な投資は継続しつつも、着実に利益を創出できる筋肉質な企業体質の確立を目指す



## 02 | 2024年7月期実績

## 損益計算書(前期比)

- ✓ 売上高は、リカバリー事業は順調に伸長したものの、アンチエイジング事業における苦戦が続き、前期を下回った。一方、通期計画に対してはインラインで進捗し、全社目標を達成
- ✓ 営業損益は、アンチエイジング事業の減収により粗利が減少したものの、獲得効率・転換率を重視した新規獲得方針に基づき広告宣伝費を中心とした販売費を効率運用したことや、事業規模に合わせた人件費・システム費等の固定費の適正化に努めたことに加え、リカバリー事業の利益が伸長したことから、前期実績・通期計画を上回り黒字を計上
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純損失は、第2四半期にソフトウェア仮勘定の減損及び契約損失により特別損失を計上したこと及び繰延税金資産を全額取り崩したことから大幅に悪化。ただし営業利益の改善により計画からは大幅に改善

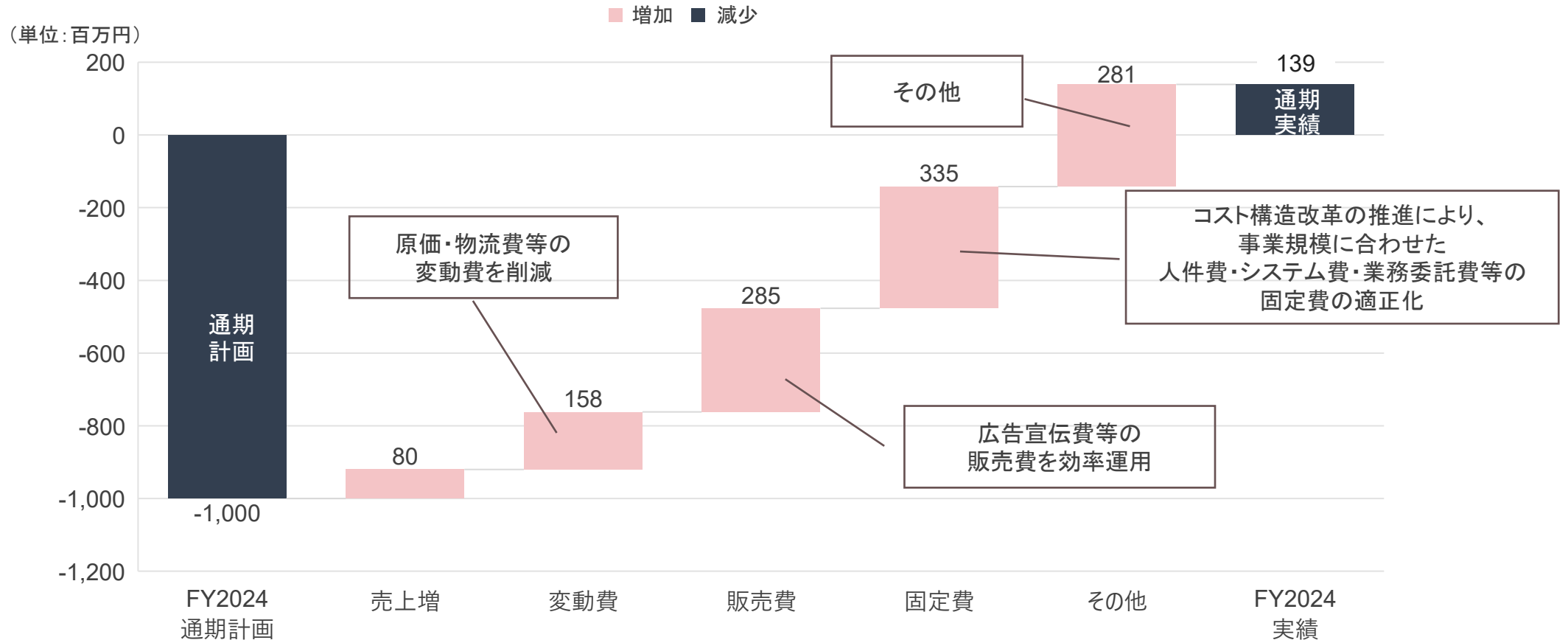
(単位:百万円)

	FY2023 実績	FY2024 計画	FY2024 実績	前期比 増減額	前期比 増減率	計画比 増減額	計画比 増減率
売上高	26,400	20,000	20,359	△6,041	△22.9%	359	1.8%
└ 通信販売	18,316	—	13,178	△5,138	△28.1%	—	—
└ 卸売販売	5,641	—	3,780	△1,861	△33.0%	—	—
└ その他	2,443	—	3,401	958	39.2%	—	—
営業損益	△611	△1,000	139	750	—	1,139	—
営業利益率(%)	△2.3%	△5.0%	0.7%	—	3.0pts	—	5.7pts
経常損益	△631	△1,000	161	792	—	1,161	—
親会社株主に帰属する 当期純損失	△733	△2,500	△1,483	△749	—	1,016	—

## FY2024営業利益の増減要因

- ✓ 営業利益は、広告宣伝費等の販売費の効率運用、原価・物流費等の変動費の削減に加え、コスト構造改革の推進により、事業規模に合わせた人件費・システム費・業務委託費等の固定費の適正化を推進したことから、通期計画から改善し黒字を計上

### FY2024通期営業利益の増減要因



## 損益計算書(四半期比較)

- ✓ 第4四半期の売上高は、リカバリー事業の伸長が貢献し、第3四半期比1億円強の増収
- ✓ 営業損益は、リカバリー事業が増益となったことに加え、アンチエイジング事業では、通販事業における広告宣伝費を中心とした販売費を効率運用したことから第3四半期に続き黒字を計上

(単位: 百万円)

	FY2023 4Q	FY2024 1Q	FY2024 2Q	FY2024 3Q	FY2024 4Q	直前四半期比 増減率
売上高	5,790	5,264	5,385	4,789	4,920	2.7%
└ 通信販売	3,876	3,543	3,508	3,128	2,997	△4.2%
└ 卸売販売	952	1,044	949	921	864	△6.2%
└ その他	961	677	927	738	1,057	43.1%
売上総利益	3,557	4,194	4,294	3,867	3,744	△3.2%
販売費及び一般管理費	4,212	4,230	4,464	3,658	3,608	△1.4%
└ 広告宣伝費	1,313	1,632	1,994	1,464	1,266	△13.5%
└ 業務委託費	1,169	1,032	947	853	873	2.4%
└ 給与手当	393	428	364	390	378	△3.0%
└ 研究開発費	212	110	103	151	131	△13.6%
└ その他	1,078	1,026	1,055	798	956	19.8%
営業損益	△654	△35	△169	208	135	△35.0%
営業利益率(%)	△11.3%	△0.7%	△3.2%	4.4%	2.8%	△1.6pts
経常損益	△674	△26	△172	243	117	△51.8%
親会社株主に帰属する四半期純損益	△580	△35	△1,649	234	△32	—



## 広告宣伝費

- ✓ 広告宣伝費の売上高比率は、前期の32.6%から31.2%に減少。第4四半期単独では25.7%と第3四半期から大幅に低下
- ✓ 新規獲得広告宣伝費は、獲得効率・転換率を重視した方針に基づいた運用の結果、前期の18.9%から14.0%に減少
- ✓ 広告マーケットの競争激化から、CPOの上昇傾向は継続するものの、足元では頭打ちしつつあると認識。引き続きCPOとLTVのバランスを見極めつつ、規律ある新規獲得投資を推進

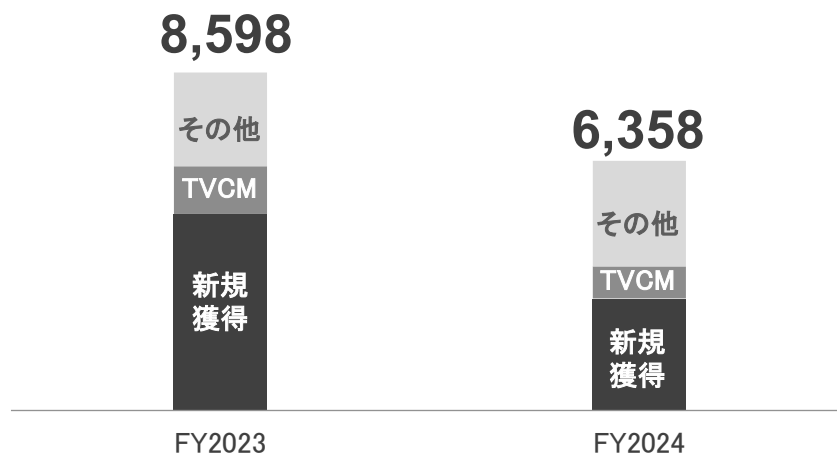
### 広告宣伝費の内訳

(参考)直前期比較: 売上高 対 広告宣伝費

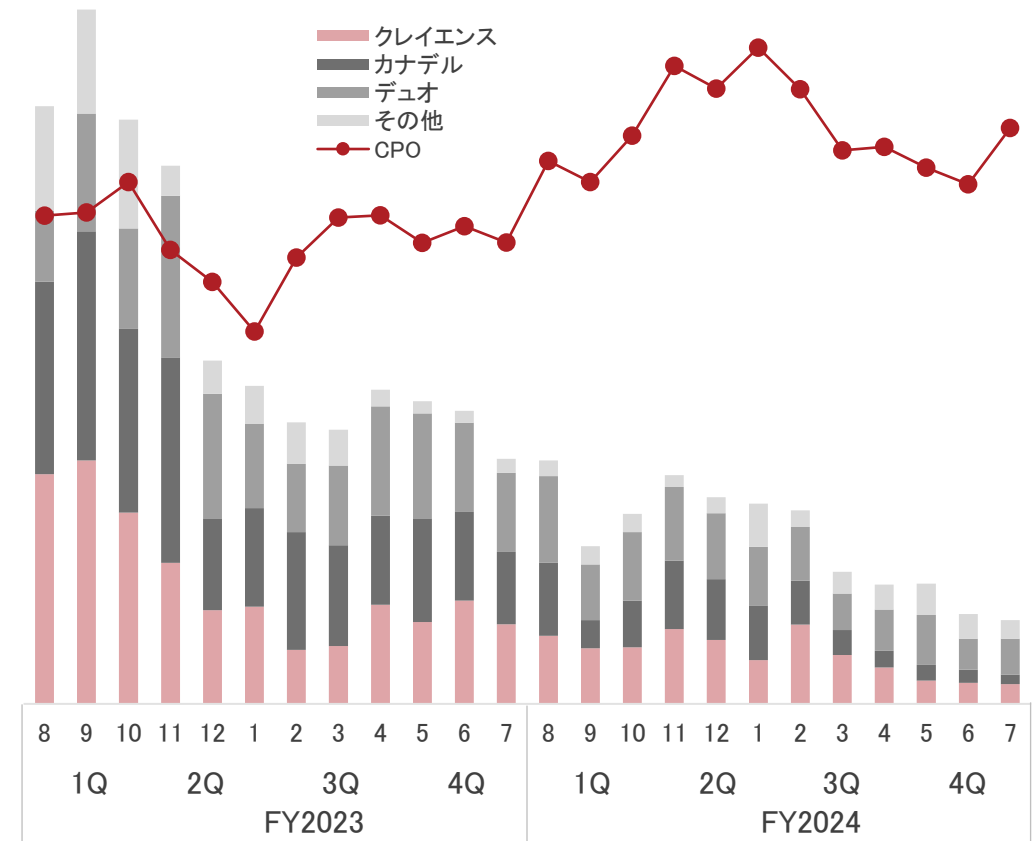
FY2024 3Q) **30.6%** ➡ FY2024 4Q) **25.7%**

- ✓ 売上高 対 広告宣伝費 32.6% ➡ 31.2%
- ✓ 売上高 対 新規獲得広告宣伝費 18.9% ➡ 14.0%

(単位:百万円)



### 通販におけるCPOと新規顧客獲得件数の推移



## 貸借対照表(前期末比)

- ✓ 棚卸資産は昨年度下期に大幅な評価減を実施。継続して在庫数量をコントロール
- ✓ 今期、システムの減損を実施するなど、財務の総点検は完了。資産の透明性・健全性は向上
- ✓ 純損失の計上に伴い株主資本が減少したものの、健全な自己資本比率を維持

(単位:百万円)

	FY2023 4Q	FY2024 4Q	増減額	増減率
資産合計	12,135	11,002	△1,132	△9.3%
└ 流動資産	9,229	8,882	△347	△3.8%
└└ 棚卸資産※	1,909	1,586	△323	△16.9%
└ 固定資産	2,905	2,120	△785	△27.0%
└└ 無形固定資産	1,511	999	△512	△33.9%
負債合計	4,525	4,877	352	7.8%
└ 流動負債	3,016	3,759	742	24.6%
└ 固定負債	1,509	1,118	△390	△25.9%
純資産合計	7,609	6,124	△1,484	△19.5%
負債純資産合計	12,135	11,002	△1,132	△9.3%
自己資本比率(%)	62.7%	55.7%	—	△7.0pts

※棚卸資産=製品+原材料及び貯蔵品



### 03 | セグメント別の状況

## アンチエイジング事業

- ✓ アンチエイジング事業では、クレイエンスの売上は計画通りに推移したものの、競争激化によりデュオ、カナデルの売上が減少し、通販、卸売販売とも前年を下回る
- ✓ 売上高の減少に伴い売上総利益が減少したことから、広告宣伝費を中心とした販売費を効率運用し、人件費・システム費等の固定費の適正化に努めたものの、営業損失を計上

(単位: 百万円)

	FY2023	FY2024	増減額	増減率
売上高	25,501	18,338	△7,162	△28.1%
└ 通信販売	18,316	13,178	△5,138	△28.1%
└ 卸売販売	5,641	3,780	△1,861	△33.0%
└ その他	1,543	1,380	△163	△10.6%
営業利益	△719	△139	580	—
営業利益率(%)	△2.8%	△0.8%	—	△2.0pts

## アンチエイジング事業(デュオ)

- ✓ クレンジング市場全体でオイル剤型への需要が引き続き強く、バーム剤型からのシフトが継続。低価格バーム商品への流出も続く
- ✓ 獲得効率とその後の転換率を重視する新規獲得方針を徹底し、価値訴求を継続実施

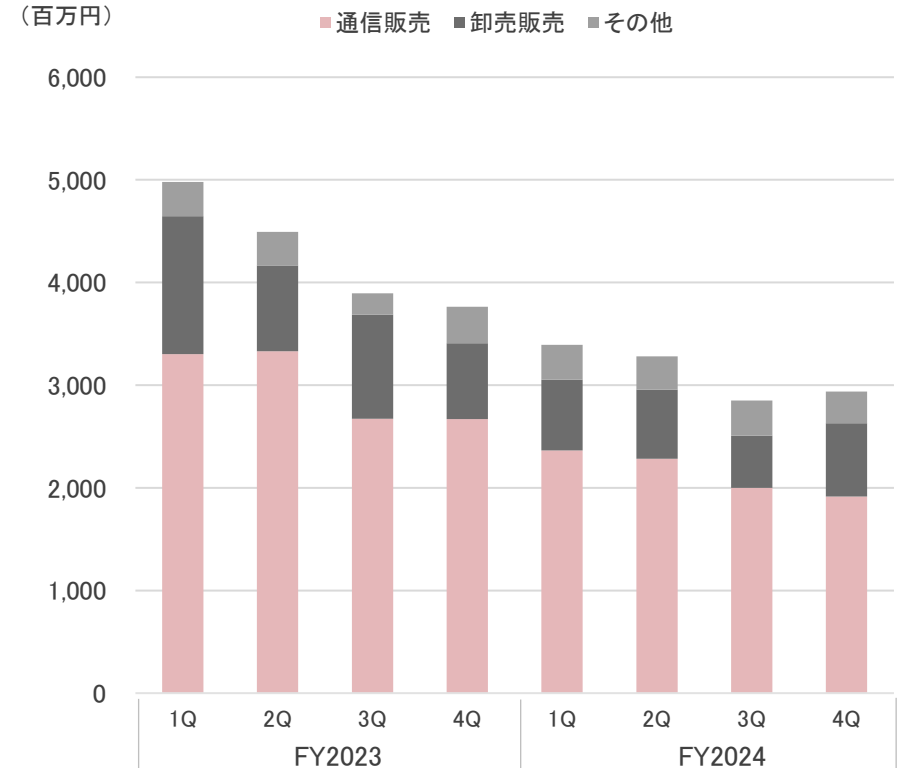
### トピックス

- ✓ 通販では、継続率向上施策とロイヤル顧客の継続促進に引き続き注力
- ✓ 美容家・インフルエンサーを活用した価値訴求を継続実施
- ✓ リテールでは、デジタル媒体と店頭でのプロモーションを連動させた認知向上施策を実施。加えて、販売店ごとの売場面積拡大のためラウンダー活動を強化
- ✓ 海外では、7月初旬から「デュオ ザ クレンジングバーム」の中国一般市場での販売をWATSONSの中国本土売上上位1,000店舗にて開始。店頭における顧客の体験機会を重視した各種施策を実施中



カラーフィールド梅田店

### デュオ 四半期売上高推移



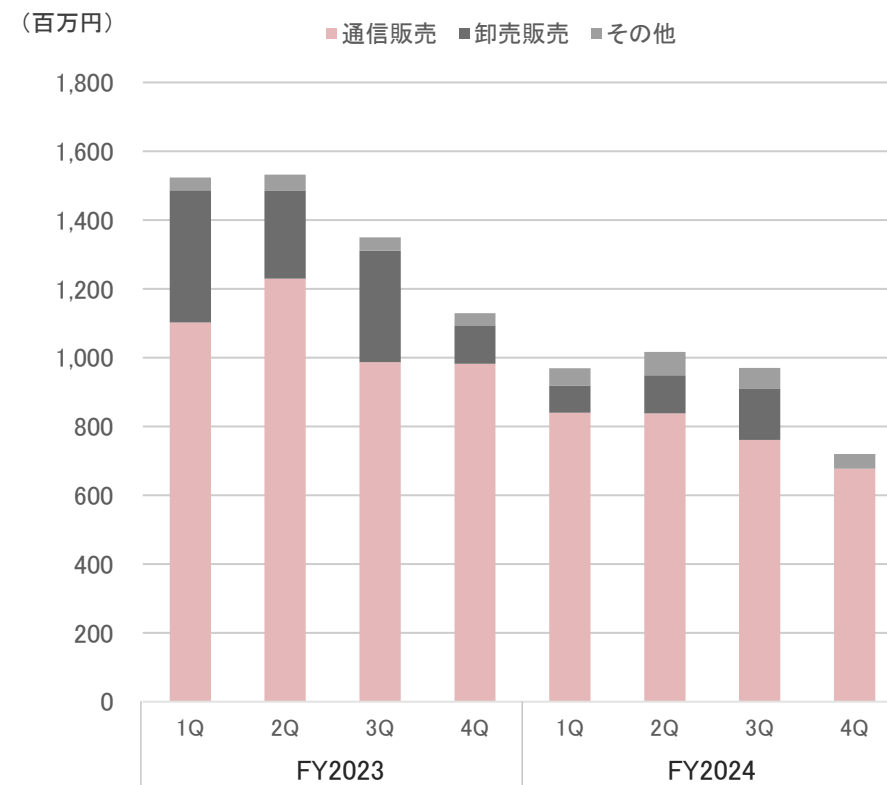
## アンチエイジング事業(カナデル)

- ✓ 通販では獲得効率とその後の転換率を重視する新規獲得方針を徹底し、新規獲得をコントロール
- ✓ リテールではオールインワン市場の競争激化が継続し、売上は前年を下回る

### トピックス

- ✓ 通販では、デュオ同様、獲得効率とその後の転換率を重視する新規獲得方針を徹底
- ✓ 著名な美容家・インフルエンサーを活用した投稿・動画配信を通じ、顧客にとっての価値訴求を継続
- ✓ リテールでは、上記美容家・インフルエンサー施策との連動に加え、各店舗でのポイント施策等を実施し、店頭での訴求強化

### カナデル 四半期売上高推移



## アンチエイジング事業(クレイエンス)

✓ カラートリートメントの競争は激化しているものの、クレイエンスの売上は計画に対してインライン

### トピックス

- ✓ カラートリートメントの競争激化、広告コストの高止まりの影響を受けるも、売上は計画に対してインライン
- ✓ 獲得効率重視の観点から新規獲得は抑制し、CRM施策強化による転換率改善に注力
- ✓ 美容家・インフルエンサーを活用し、正しい使い方を含む商品理解促進のコミュニケーションを継続。合わせて、同梱物等によるコミュニケーションも継続的に実施。
- ✓ 秋冬シーズンに向け10月11日にカラートリートメントの新色「ローズブラウン」を発売し、ブランドのラインナップを拡充



クレイSPA カラートリートメント新色「ローズブラウン」

## アンチエイジング事業(育成ブランド群)

- ✓ 男性向けスキンケア、インナーケア、高濃度ビタミンCスキンケア、独自の幹細胞エキスをコア成分としたスキンケア等、成長カテゴリーにおいてテストマーケティングを継続中

### トピックス

## SINTO (シントー)

- ✓ シントーVCはインフルエンサー施策の強化で新規獲得件数が拡大
- ✓ パワーインフルエンサーの起用により、美容関心層への認知拡大
- ✓ CRM施策強化による転換率改善に注力



SINTO リポソーム ビタミンC

## C<sup>+</sup>mania (シーマニア)

- ✓ シーマニアの酵素洗顔「C+mania 薬用パワークリアC+」はインフルエンサー施策と連動した店頭での訴求を強化
- ✓ 売場面積拡大に向けたラウンダー活動の強化や、インバウンド向け企画品のテストマーケティングを実施



C+mania 薬用パワークリアC+ 医薬部外品



## リカバリー事業

- ✓ 第3四半期から実施したデジタルマーケティング施策によりブランド認知が促進、第4四半期単独に加えて、通期においても過去最高売上、過去最高利益を達成
- ✓ 旗艦製品のスタンダードドライブプラス、移動時の休養をコンセプトとして新しい休養シーンの提案を行ったリカバリームーヴなどの新製品が売上をけん引、プレミアムアンチエイジングとの事業連携やサプライチェーンの強化も大きく進展

(単位:百万円)

	※ FY2023	FY2024
売上高	899	2,020
営業利益	106	278
営業利益率(%)	11.9%	13.8%

※ FY2023の売上高及び営業利益は、リカバリー事業が前連結会計年度の第3四半期連結会計期間より開始したことから、第3四半期からの累計数値となっています。

## リカバリー事業(ベネクス)

- ✓ デジタルマーケティング施策を中心とし、ブランド強化・営業販売促進・商品開発・SCMを連動させた事業活動を実現
- ✓ リカバリームーヴなどの新たな休養シーンを定義する新製品や、コンフォートクールなどの春夏向け新製品が躍進

### トピックス

- ✓ デジタルマーケティング施策に合わせ、お客様の様々な購買ニーズや休養シーンにマッチする独創的な製品ラインナップを拡充。通年モデルの旗艦製品に加えて投入した新製品群が躍進
- ✓ スポーツのトップチームとの新規契約を継続的に実施。製品提供のみならず「休養学セミナー」も併せて実施し、パフォーマンス向上のために必要な「休養」の理解を促進  
また、各分野のプロフェッショナルや、チーム、組織と共に、ベネクス製品だけのユーザーメリットを消費者へダイレクトに伝える活動を実施
- ✓ SNSを中心に活動する次世代の美容家たちが注目する POPUP SHOPへの出店や、リテールECへの参入など、新たなチャネルでの露出や販売を実施
- ✓ 業界トップのエビデンスと休養学に基づく製品開発を引き続き実施。合わせて、ユーザーにとってリカバリーを実感しやすく、リカバリーの仕組みやメリットがわかり易い環境作りを推進

【サッカー】松本山雅FC



【ラグビー】明治大学ラグビー部





## 04 | サステナビリティ

## サステナビリティへの取り組み

✓ サステナビリティ基本方針のもと、マテリアリティを中心に様々な社会課題解決に向けた取り組みを実施

Uniqueな価値の提供

### 調達方針の策定・開示

✓ サプライヤーの皆様とともに、サステナブルな調達を推進していく目的で、7月に調達方針を策定し、コーポレートサイトへ掲載

#### 調達方針

1. サプライヤー様との共存共栄を大切にし、ともに事業を安定的に拡大させ、ともに成長し、Uniqueな価値を生み出してまいります。
2. 法令遵守、情報管理及び地球環境・人権・労働安全に配慮した「調達」を築いてまいります。
3. 適正なプロセスで生産した商品の提供を通じて、品質の安心・安全の担保及び商品の安定的な供給を探求し続けます。

Uniqueな価値の提供

### アンチエイジングリレー

✓ 社員が自ら取り組んでいる「アンチエイジング」をリレー形式で発信する取り組み「一人ひとりがアンチエイジングの体現者」となることを後押しする



ウェルビーイングの向上

### 休養学セミナーの開催

✓ 連結子会社である(株)ベネクスと協力し、生産性向上を目的に休養学セミナーを定期的に関催



## マテリアリティの各取り組み事項の目標に対する進捗

テーマ	マテリアリティ	重点項目	取り組み事項	KPI/目標	目標値	達成年度	2024年7月期実績
アンチエイジングがもたらす豊かさの追求	地球環境保全への貢献	資源循環・サーキュラーエコノミーへの貢献	環境配慮紙の使用	環境配慮紙使用率	100%	毎年	100%
		脱炭素社会への取り組み・貢献	CO2排出量削減	Scope1・2の削減率	50%削減 (2023年7月期比)	2027年7月期	削減に向けた取り組みを実施*1
	ともに育ち、育てあう組織文化の追求	価値創造に向けて努力・成長し続ける人材づくり	社員エンゲージメントの向上	エンゲージメントスコア	10%向上 (2023年7月期比)	2027年7月期	4.7%向上 (2023年7月期比)
			育ち、育てあう組織に向けた育成環境の更なる充実	研修体系の見直しとそれに応じた研修コンテンツの拡充	左記の実施	毎年	見直し・拡充を推進
	ウェルビーイングの向上	心身の健康の実現	社員への健康支援の推進	健康経営の認証取得	継続選定	毎年	健康経営優良法人2024認定
	Uniqueな価値の提供	プレミアアンチエイジングらしさの追求	社員へのアンチエイジングの浸透	社員のアンチエイジングに関する資格の保有個数	新規取得資格数75個以上	2027年7月期	新規取得資格数31個
				アンチエイジングを促進する制度の拡充	左記の実施	2027年7月期	検討中
				アンチエイジングを促進する社会活動への参加	継続実施	毎年	継続実施
		サプライヤーとの協働	サステナビリティの要素を取り入れた調達方針の策定	調達方針の策定	調達方針の開示	2024年7月期	開示完了
成長を支える企業基盤	ガバナンスの強化	コーポレートガバナンス体制の整備・強化	コーポレートガバナンスに係る開示の充実・透明性向上	左記を検討・推進	—	—	—
		コンプライアンス・リスクマネジメントの徹底	コンプライアンスや情報セキュリティ研修の受講率*2	受講率	100%	毎年	コンプライアンス研修99%*3 情報セキュリティ研修100%
		情報セキュリティ及びプライバシーの保護					

\*1事務所移転・店舗増加に伴い目標値を再検討中。

\*2業務委託・派遣社員除く。

\*3ただし、未受講者向けに延長期間を設け100%受講



## 05 | 2025年7月期業績予想

## 中期経営計画「2024-2027 +Beyond」について

- ✓ 初年度となる今期の実績を踏まえ、27年7月期の計画達成は困難と判断。主要財務KPIを取り下げる
- ✓ 「アンチエイジングカンパニーへの進化」等の数値目標以外の中長期的な経営方針は引き続き実現を目指す
- ✓ 再策定でき次第速やかに公表するが、当面の間は経営方針や財務状況の情報開示として単年度ごとの見通しを公表

### 中計初年度(24年7月期)の振り返り

順調に進捗

黒字化の達成

構造改革フェーズと位置付けた初年度では、財務上の懸念を一掃することに取り組み、通信販売・リテールともに事業構造の転換や財務規律の徹底を進めた結果、営業黒字化を達成

成長投資

リカバリーウェアのベネクスを中心に過去最高売上・利益となる順調な成長を果たした

進捗に課題

主事業減速

ブランド価値強化や、新規-既存投資バランスの見直しの取り組み効果が見える前に、事業環境の変化や競争環境の激化を主な要因として通信販売の売上が当初計画を大きく下回った

海外事業

処理水問題や中国市場減速の影響を受け、計画を大幅に修正せざるを得なかった

### 中期経営計画 構造

時間軸

2024年7月期

2027年7月期

主要財務KPI

未達成

	計画	実績
連結売上高	260億円	203億円

達成

	計画	実績
連結営業利益率	0.4%	0.7%

取り下げ

連結売上高	400億円
連結営業利益率	10% 以上
自己資本比率	50% 以上
ROE	12-15%水準

中期戦略経営方針

継続して実現を目指す

- 中期的な経営指針「Uniqueな価値にこだわりぬく」
- 中長기에目指す姿「アンチエイジングカンパニーへの進化」
- DUOをはじめ主要ブランドをチャネルミックスで成長させ、アンチエイジングに関わる新たな成長分野(リカバリー事業等)を開拓・積み上げる

## 2025年7月期業績予想

✓ 2025年7月期は減収・増益を見込む

(単位:百万円)

	FY2024 実績	FY2025 予想	増減額	増減率	
通期	売上高	20,359	17,500	△2,859	△14.0%
	営業利益	139	150	10	7.9%
	営業利益率(%)	0.7%	0.9%	—	0.2pts
	経常利益	161	130	△31	△19.4%
	親会社株主に帰属する当期純損益	△1,483	130	1,613	—
半期	売上高	10,649	8,500	△2,149	△20.2%
	営業損益	△205	△150	55	—
	営業利益率(%)	△1.9%	△1.8%	—	0.1pts
	経常損益	△199	△160	39	—
	親会社株主に帰属する四半期純損益	△1,685	△160	1,525	—



## 2025年7月期業績予想(各事業における取り組み)

- ✓ ブランドマネジメントと各チャネルの協働により、ブランド・商品・チャネルの最適化を図る
- ✓ 売上高の減収が続く厳しい事業環境下においても、着実に利益を創出できる筋肉質な企業体質の確立を目指す

### アンチエイジング事業

#### ブランドマネジメント

- ✓ ブランドを再定義し、新商品・新ブランドを投入
- ✓ ブランド価値を訴求する新たなコミュニケーション・新プロモーションの実行

×

#### チャネル戦略

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>通販</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 獲得効率の徹底の継続</li> <li>✓ 顧客構造を強化するCRM施策の更なる拡充</li> </ul>            | <p><b>海外</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中国本土における越境ECおよび一般貿易を強化</li> <li>✓ アジアパシフィック市場を開拓</li> </ul> |
| <p><b>リテール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新プロモーションとのタイアップ施策を推進</li> <li>✓ 卸売先企業との連携を深化し成長力を獲得</li> </ul> | <p><b>新規</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新たな販路の拡大</li> </ul>   |

+

#### 適正なコストマネジメント

- ✓ 変動費のコントロールおよび事業規模に合わせた固定費(組織・外部委託・システム費)の適正化の継続

### リカバリー事業

- ✓ 成長市場における事業拡大
- ✓ グループとしての連携強化
- ✓ ブランディング、デジタルマーケティング、CRM、新製品開発等の強化



## 06 | 参考資料

# 会社概要

社名	プレミアアンチエイジング株式会社	
設立	2009年12月	
本社	東京都港区虎ノ門二丁目6番1号虎ノ門ヒルズステーションタワー	
役員 執行役員	代表取締役社長 取締役常務執行役員 CFO 社外取締役 社外取締役 常勤監査役 社外監査役 社外監査役 執行役員 執行役員 執行役員 執行役員	松浦 清 伊藤 洋一郎 福本 拓元 堺 咲子 石原 基康 井出 彰 近藤 陽介 上村 敬吾 上原 祐香 野田 雅裕 羽原 実利
連結従業員数	229人（2024年7月31日現在）	
事業内容	化粧品・健康食品及びリカバリーウェアの企画、開発、輸出入、通信販売、卸及び小売業務	
関係会社	蓓安美(上海)化粧品有限公司 株式会社ベネクス	



## コーポレート・アイデンティティ

- ✓ 2023年に、当社のスローガン、パーパス、プロミスをあらためて制定

### スローガン

# Forever vivid

とき  
人の時間を、解き放つ。

Untether time.

### コーポレートロゴ



PREMIER ANTI-AGING

# Wonder Watch

とき  
時間を解き放つ。そのとき、人生は鮮やかに輝きはじめる。

Untether time. For the time of your life.

### パーパス

Uniqueな感性と思考で生み出した製品やサービスで、  
すべての人を年齢から解き放ち、新たな価値観で輝かせる。

Create original products and services of unique value that untether  
people from their age and brighten their lives.

### プロミス

#### No limits

プロフェッショナルとして、自らの壁を超え成長し続ける。  
Be a professional, pushing your boundaries and seeking growth.

#### Never boring

決まりきった方法を疑い、新たな驚きと発想を生み出す。  
Question the status quo and welcome surprising new ideas.

#### Always true

自分に、仲間に、社会に、妥協なく誠実に向き合う。  
Be sincere and honest with everyone—including yourself.


**沿革**

- 2009 ● - 12月: プレミアアンチエイジング株式会社を東京都港区虎ノ門に設立
- 2010 ● - 2月: 化粧品販売事業を開始。「デュオ」ブランドローンチ。「ザ クレンジングバーム」を通信販売にて販売開始
- 2012 ● - 7月: 本社を六本木ヒルズけやき坂テラスに移転
- 2019 ● - 4月: 大人のエイジングケアブランド「カナデル」ブランドローンチ  
- 10月: デュオ「ザ クレンジングバーム」シリーズ累計出荷個数1,000万個突破
- 2020 ● - 3月: 本社を虎ノ門ヒルズ森タワーに移転  
- 9月: 敏感肌向けブランド「シトラナ」ブランドローンチ  
- 10月: 東京証券取引所マザーズ上場  
- 12月: プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社設立
- 2021 ● - 2月: 蓓安美(上海)化粧品有限公司設立
- 2022 ● - 3月: ヘアケアブランド「クレイエンス」ブランドローンチ  
- 4月: メンズスキンケアブランド「デュオ メン」ローンチ
- 2023 ● - 1月: インナーケアブランド「シントー」ブランドローンチ  
- 1月: 株式会社ベネクスを連結子会社化  
- 2月: インナーケアブランド「エックス」ブランドローンチ  
- 8月: ビタミンスキンケアブランド「シーマニア」ブランドローンチ  
- 11月: プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社吸収合併  
- 11月: 本社を虎ノ門ヒルズステーションタワーに移転
- 2024 ● - 2月: デュオ「ザ クレンジングバーム」シリーズ累計出荷個数5,000万個突破

## 主カブランドと売上構成比

- ✓ スキンケアブランドの「デュオ」「カナデル」とヘアケアブランドの「クレイエンス」が売上を牽引

### スキンケア

DUO  
(デュオ)



- ✓ 創業来の主カブランド。クレンジングバーム市場のパイオニアとして当社売上を牽引
- ✓ 2010年2月より販売開始
- ✓ 19SKUを展開※1

売上構成比※2

61%

CANADEL  
(カナデル)



- ✓ デュオに続く第2のブランドとして育成中。忙しい現代女性の時短ニーズに着目
- ✓ 2019年4月より販売開始
- ✓ 8SKUを展開※1

売上構成比※2

18%

### ヘアケア

clayence  
(クレイエンス)



- ✓ デュオ、カナデルから得たブランド育成ノウハウを水平展開
- ✓ 白髪に悩む若年層をターゲットにしたホームヘアケアブランド
- ✓ 2022年3月より販売開始
- ✓ 11SKUを展開※1

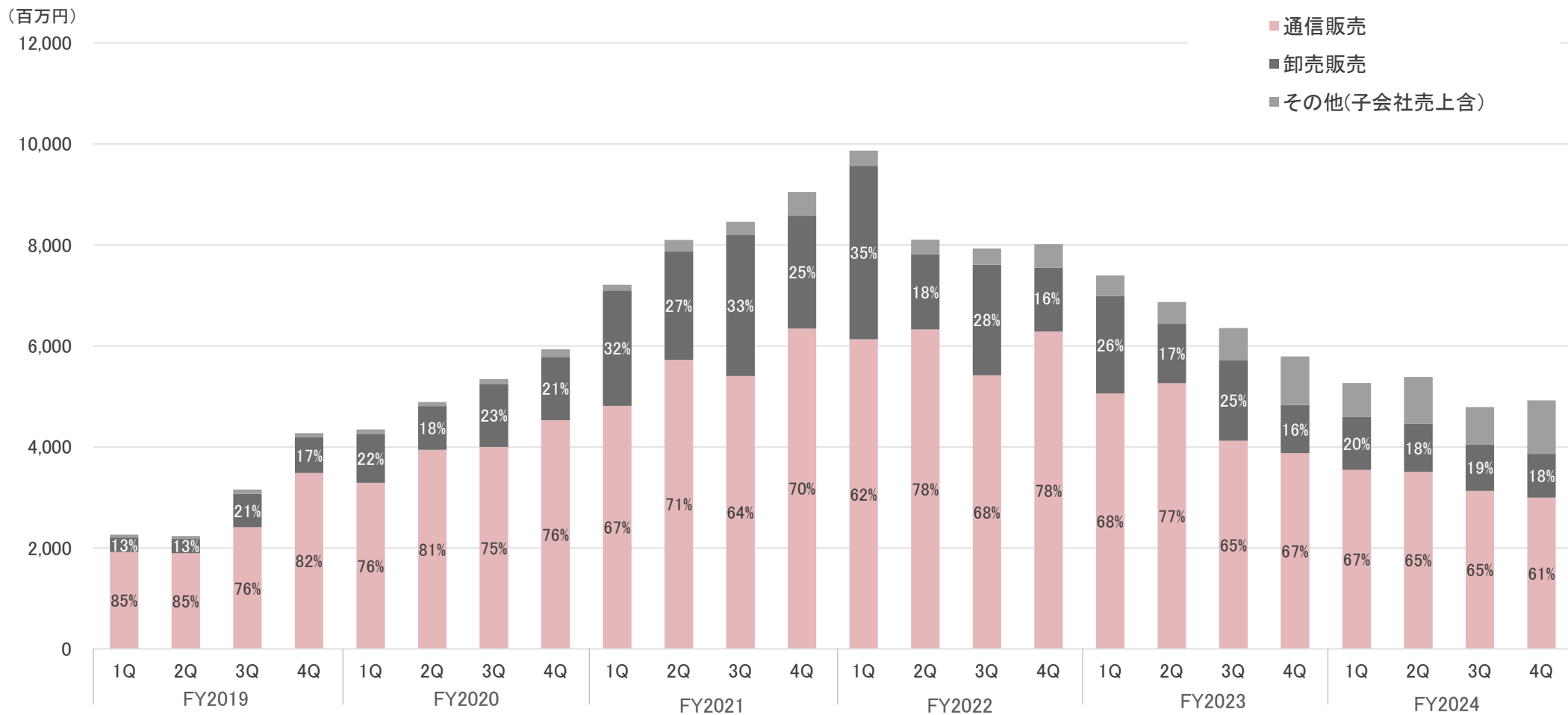
売上構成比※2

9%

※1 SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。 ※2 FY2024の連結売上高をベースに算出。

## 販売チャネル別 売上高の推移

- ✓ 当社が創業時から取り組んでいる主力の通信販売の2024年7月期における売上構成比は65%
- ✓ バラエティショップ等の小売店への販売を担う卸売販売の売上構成比は19%



## 総会員数の推移

✓ 定期販売モデルを支える会員数は着実に増加し総会員数は390万人を突破





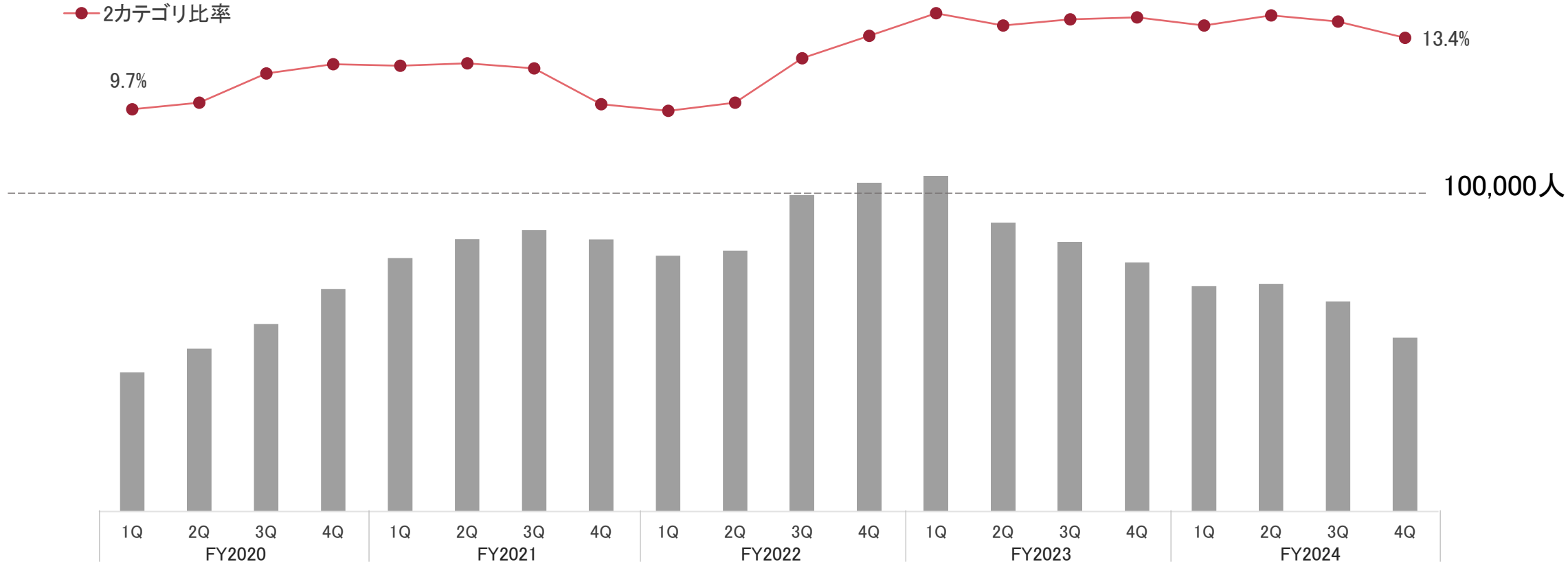
## クロスセル顧客数の推移

✓ 積極的なCX推進により、クロスセル率は安定的に推移

### 2定期商品以上保持顧客数、顧客比率の推移

■ 2カテゴリ定期保持顧客数

● 2カテゴリ比率



注: 2定期商品以上保持顧客数とは、2つ以上の商品カテゴリ(パームと美容液など)について定期購買中の顧客を指す。

## ■ 主要な取扱いブランド DUO(デュオ)

- ✓ 創業来の主カブランド。クレンジングバーム市場のパイオニアとして売上を牽引

# DUO



肌や身体にとって自然である優しい原料(=自然)を採用しながら、皮膚科学に基づいた先端科学(=科学)を掛け合わせることで、効果性の高い商品を開発することを方針とし、「肌を土台から養うこと」をブランドコンセプトとしたエイジングケアブランドです。現在クレンジングバームを中心に19SKU※を展開しています。

### 2024年までに受賞した主なベストコスメ



**MAQUIA 5月号**  
MAQUIAブライトニング・UVグランプリ2024  
敏感肌対応部門  
1位



**LEE 8月・9月合併号**  
肌と心に幸せを約束するLEEベストコスメ大賞2024上半期  
ウェルエイジングなスキンケア部門  
ブライトニングケア  
大賞 他 10冠

※SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。

## 主要な取扱いブランド CANADEL(カナデル)

✓ デュオに続く第2のブランドとして育成中。忙しい現代女性の時短ニーズに着目

# CANADEL



「いつまでも美しさを追求し、私らしい私を奏で、人生を謳歌する」をコンセプトに、肌の悩みが変化する大人世代に向けて2019年4月に誕生した高機能エイジングケアブランドです。忙しい毎日を前向きに生きる現代女性のライフスタイルを考えた商品を提案しています。

現在オールインワン化粧品を中心に8SKU※を展開しています。

### 2024年までに受賞した主なベストコスメ



#### 美的 8月号

2024上半期美容賢者が選ぶ  
ベストコスメ プチプラススキンケア  
・ヘアケア部門  
プチプラクレンジング編  
1位



#### InRed 7月号

2024年上半期「ドラバラ」コスメ大賞  
オールインワン部門  
1位

他 11冠

※SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。

## 主要な取扱いブランド Sitrana(シトラナ)

✓ 全商品にシカ成分※を配合した敏感肌向け化粧品ブランド

# sitrana



独自のアンチポリレーション機能により、肌あれを引き起こす乾燥や大気汚染、汚れなどによる外的刺激から、肌を守り、オリジナル配合のシカ成分※により、ダメージを受けた肌を整え、未来のなりたい肌へと導いていきます。

### 2024年までに受賞した主なベストコスメ



**MAQUIA 9月号**  
みんなのベストコスメ  
マキアインフルエンサーズ  
ベスコス



**BAILA 8月号**  
2022年上半期働く30代のための  
先手必勝ベストコスメ大賞  
スキンケア部門賞

他 4冠

※ 植物の「ツボクサ」から抽出される成分のこと。

## 主要な取扱いブランド clayence(クレイエンス)

- ✓ デュオ、カナデルから得たブランド育成ノウハウを水平展開。白髪に悩む若年層をターゲットにしたホームヘアケアブランド



クレイの力と先進のサイエンスを融合し、髪と頭皮をケアしながら白髪カラーを叶えるクレイSPA発想のヘアケアブランドです。選びぬいたクレイや美容成分だけでなく、こだわりの心安らぐ香りで、面倒なヘアケアの時間を贅沢なスパタイムに変えていきます。現在11SKU※を展開しています。

### 2024年までに受賞した主なベストコスメ



**VOCE 3月号**  
お風呂美容はタイパ最強！  
VOCEお風呂ベスコス  
シャンプー&トリートメント部門  
1位



**MAQUIA 1月号**  
ベストコスメ2023年下半期  
シャンプー&コンディショナー部門  
1位

他 21冠

※SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。

## ■ 主要な取扱いブランド DUOMEN(デュオメン)

- ✓ デュオブランドの高い認知度を活かし、急成長の男性化粧品市場へ新たに展開

DUO  
*men*



「美は肌もとから再動する」デュオブランドのコンセプトはそのままに、Ecology Bioscience(生態生物科学)的な視点で、男性ならではの肌ダメージの実態に着目。忙しい日々を過ごす全ての男性が日々のスキンケアを楽しく続けられるよう、簡単ステップでも、しっかり効果が実感できるスキンケアを提案します。

現在5SKU※を展開しています。

### 2024年までに受賞した主なベストコスメ



MEN'S NON-NO 12月号

メンズノンノ美容大賞2023  
洗顔部門  
2位



MEN'S NON-NO 12月号

メンズノンノ美容大賞2023  
オールインワン部門  
2位

他 5冠

※SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。

## 主要な取扱いブランド SINTO(シントー)

✓「結果で応える」を開発フィロソフィーに、インナーケアブランドを展開

# SINTO



体感こそサプリメントの本質であるとの考えから、医療現場と同様のDDS技術を採用。徹底的に成分の“体感”にこだわり、“浸透”という領域から、カラダと成分の関係性を一新することを目指します。配合量(高配合)と、高吸収・高浸透型(リポソーム化)で高い体感性を追求したエイジングを楽しむ大人に向けたヘルスケアサプリメントを提供しています。現在2SKU※を展開しています。

2024年までに受賞した主なベストコスメ



美的.com11月22日発売

美的HEN 2023年  
年間ベストコスメ  
美的HEN 年間賢者  
インナーケアランキング  
1位



LEE 1・2月号

肌にも気持ちにも寄り添う  
LEEベストコスメ大賞2023下半期  
美容賢者の最愛コスメ大賞  
インナーケア部門

他 15冠

※SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。

## ■ 主要な取扱いブランド C+mania(シーマニア)

✓ 確かな効果を追求する「美容情報リテラシーの高い消費者」に向けた、高濃度ビタミンスキンケアブランド

# C<sup>+</sup>mania



70種類以上ある中から厳選したビタミンCと、Cを高める+αの足し算美容で、高純度×高浸透×高濃度にこだわった”攻め”のビタミンスキンケアブランドです。

「マニアックにビタミンCを楽しむ」をコンセプトに、ビタミンCのもつ力を最大限に発揮すべく、即効性の高いスキンケア商品の提案を目指します。現在3SKU※を展開しています。

2024年までに受賞した主なベストコスメ



**an・an 2365号**  
発表!2023年秋ananモテコスメ大賞  
スキンケア部門  
みんな大好きVCのパワーを  
実感できる賞



**LEE 1・2月号**  
肌にも気持ちにも寄り添う  
LEEベストコスメ大賞2023下半期  
クレンジング・洗顔料大賞

他 13冠

※SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。



## ■ 主要な取扱いブランド Reinca (レインカ)

- ✓ 東京大学との共同研究により生み出された独自の幹細胞エキスをコア成分としたスキンケアブランド

# Reinca



”SKIN & SENSE サイエンスの力で、  
肌と感性の源に向きあう“をブランドコンセプトに、  
先進皮膚研究から生まれた肌の細胞ケアと、  
身体感覚の心地よさを追求した五感ケアを  
提唱しています。  
東京大学との共同研究により実用化に成功した  
独自の歯髄幹細胞培養上清液「ENGY ステム S」を  
コア成分にブランド展開しています。  
現在5SKU※を展開しています。

※SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。

## ベネクス取扱いブランド: VENEX(ベネクス)

- ✓ リカバリー領域のパイオニアとして、独自の特許技術を用いて作られた生地を使用した製品開発を実現



「人間が本来持っている自己回復力を最大限に発揮させること」をコンセプトに、休養時専用ウェアを提案しています。

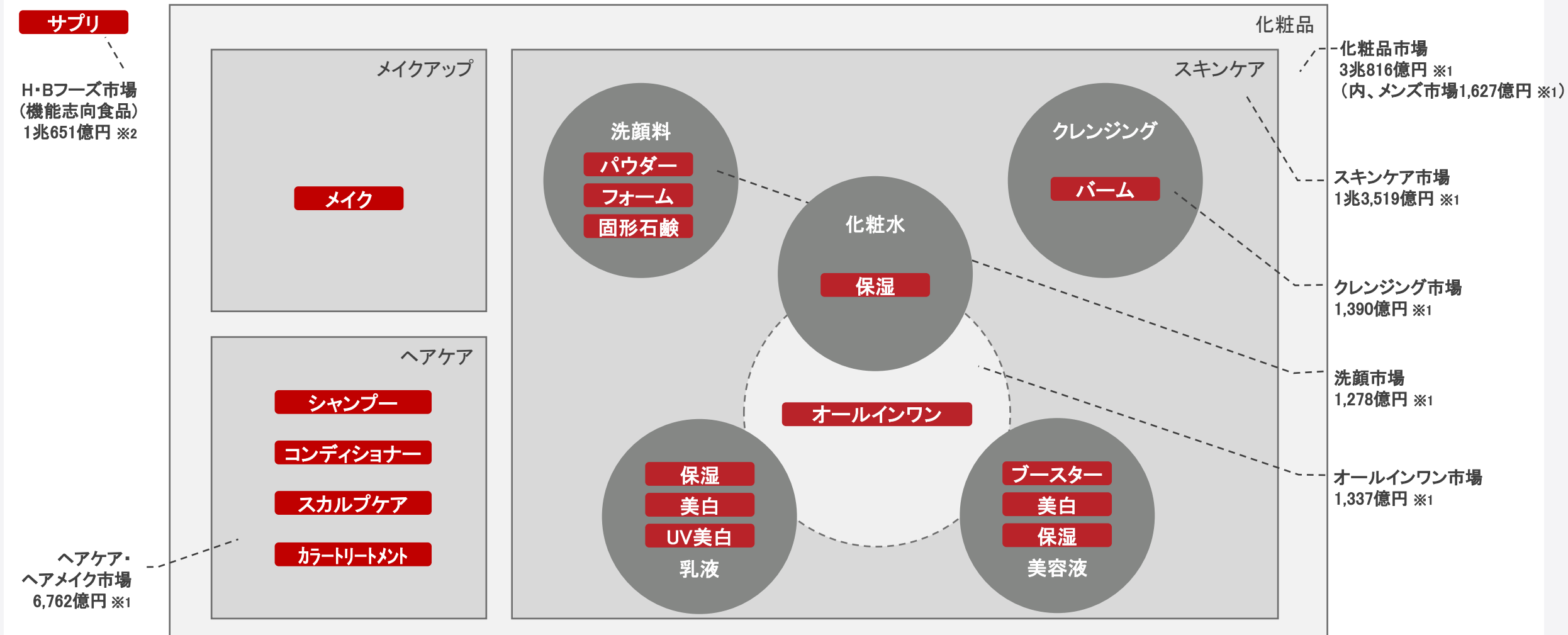
独自開発の特殊繊維「PHT(Platinum Harmonized Technology)」と、体を締め付けないノンコンプレッションデザインによる、身に着けるだけで上質な休養をサポートします。

現在87SKU※を展開しています。

※SKU数は、2024年7月末日時点の定番商品数。限定品、サイズ違い商品は除く。

## 国内化粧品市場の市場規模

✓ バームの属するクレンジング市場の2023年国内市場規模は1,390億円

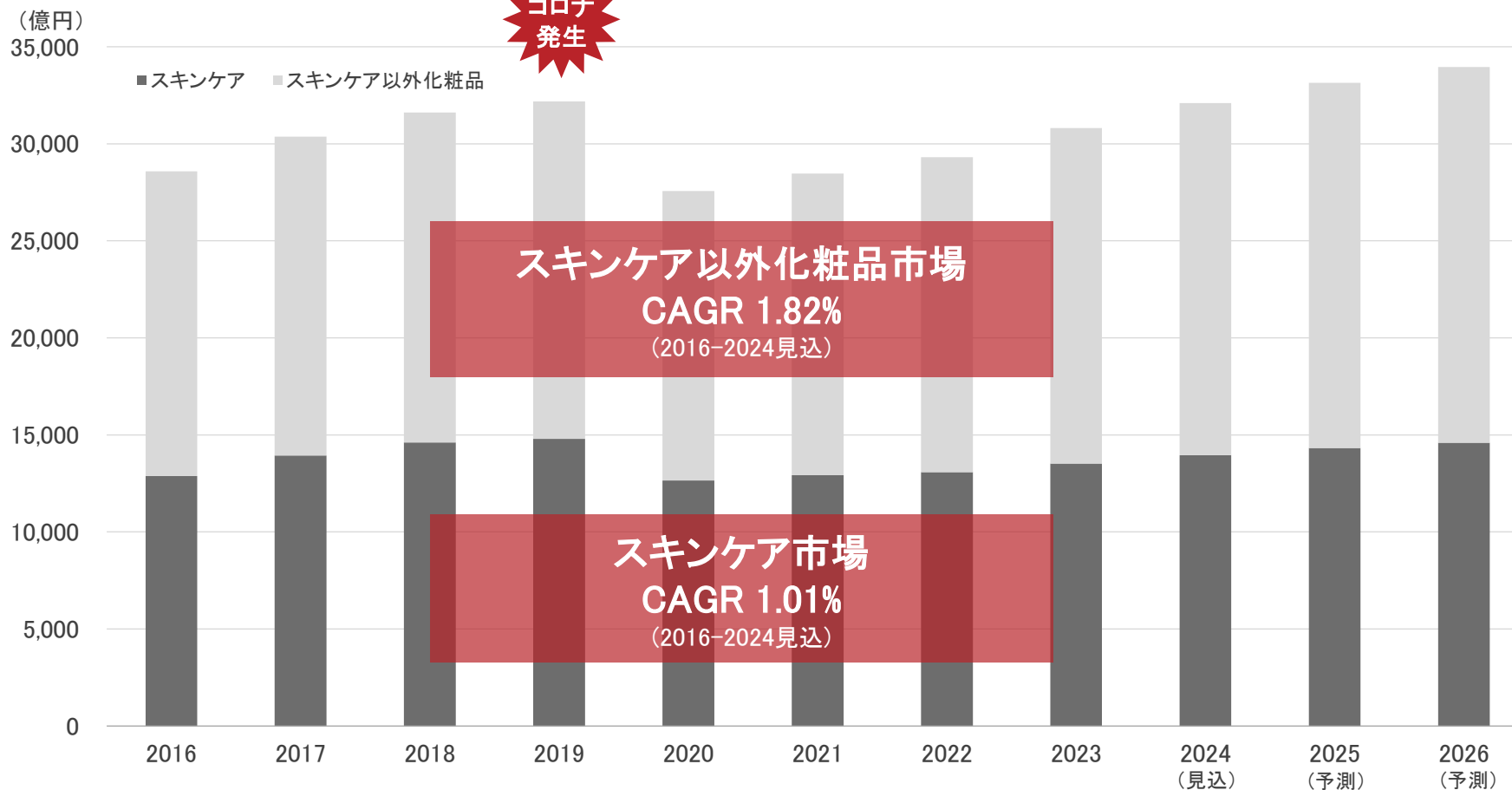


出典：富士経済「化粧品マーケティング要覧2024 No.1」、「化粧品マーケティング要覧2024 総括編」、「H・Bフーズマーケティング便覧 2023 <総括編>」  
 ※1化粧品市場、メンズ市場、スキンケア市場、クレンジング市場、洗顔市場、オールインワン市場、ヘアケア・ヘアメイク市場は2023年確定 ※2 H・Bフーズ市場は2022年見込  
 注：グレーはマーケット、赤は当社取扱商品を表す。

## 化粧品及びスキンケアの国内市場規模推移

✓ コロナ禍を機に大幅に減少した国内化粧品市場は、2020年以降緩やかな回復が継続

化粧品国内市場規模推移

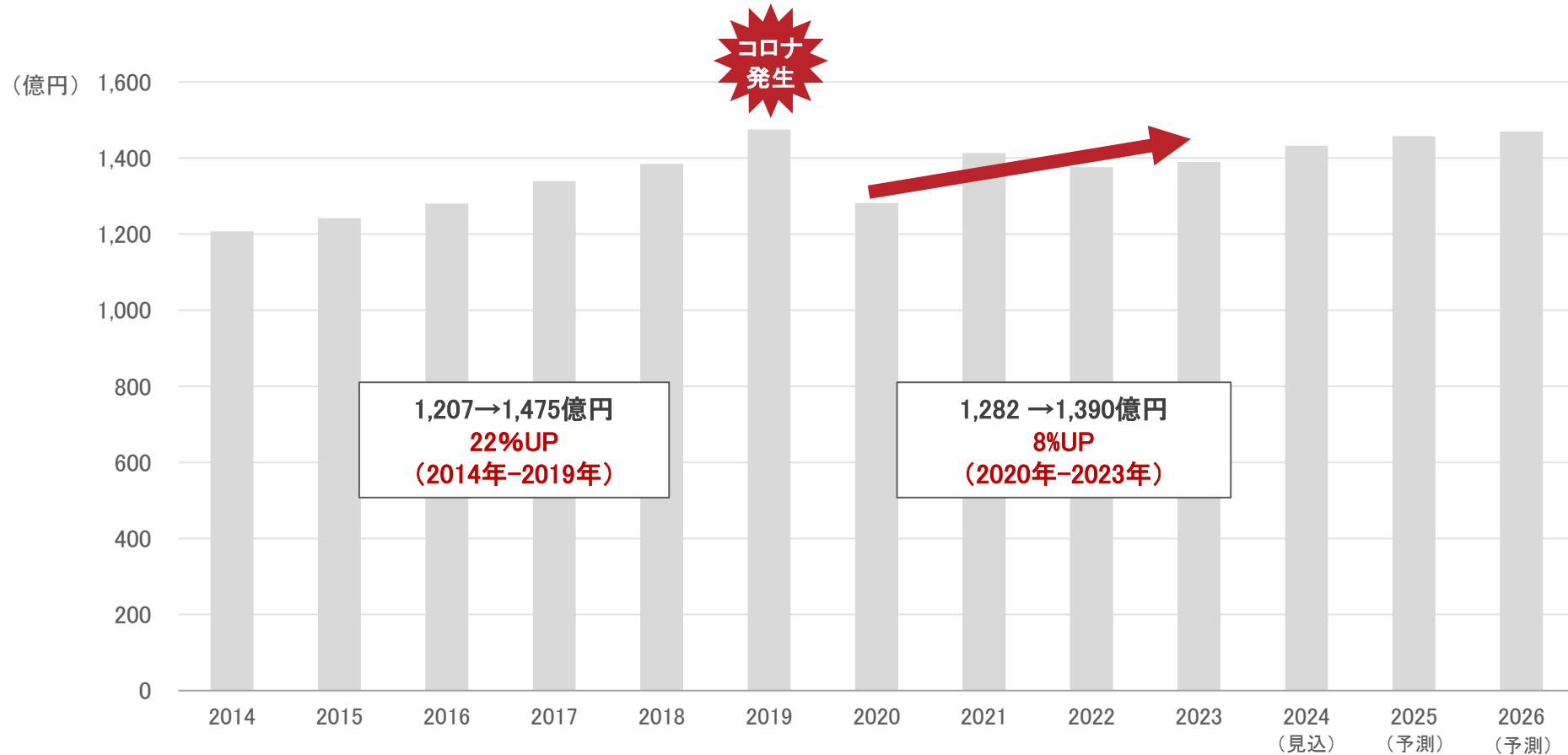


出典: 富士経済「化粧品マーケティング要覧2024 総括編」

## クレンジングの国内市場規模推移

- ✓ 新型コロナウイルス感染症によるインバウンド需要の消失により国内クレンジング市場は2020年に急下降
- ✓ メイク落としからスキンケア品としてクレンジングの位置付けが変化し、2021年以降、市場は緩やかに拡大

クレンジングの国内市場規模推移

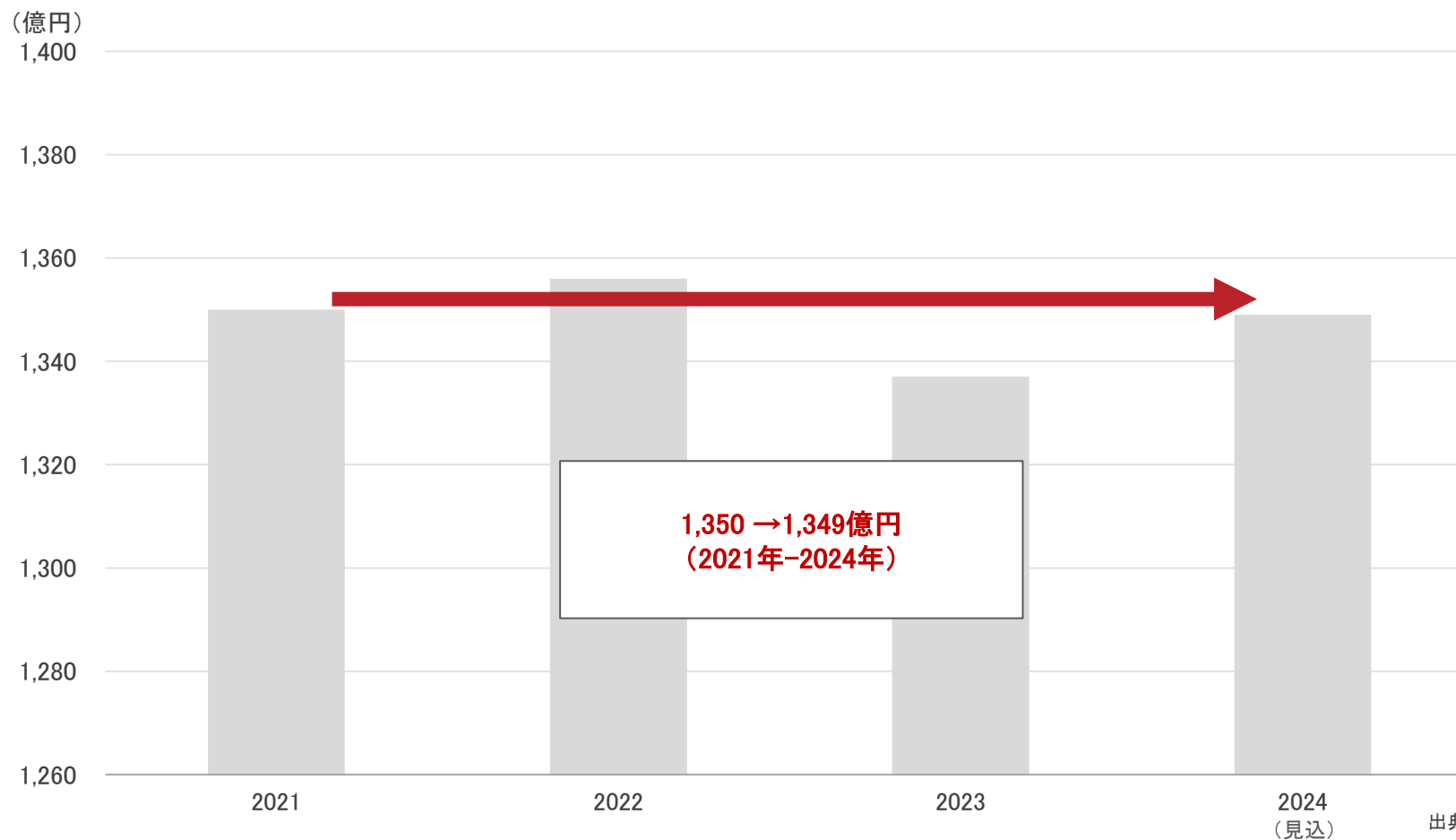


出典: 富士経済「化粧品マーケティング要覧2024 No.1」

## オールインワンの国内市場規模推移

- ✓ 洗顔後のスキンケアを1アイテムで完了することを訴求した商品
- ✓ 市場規模は横ばいで推移

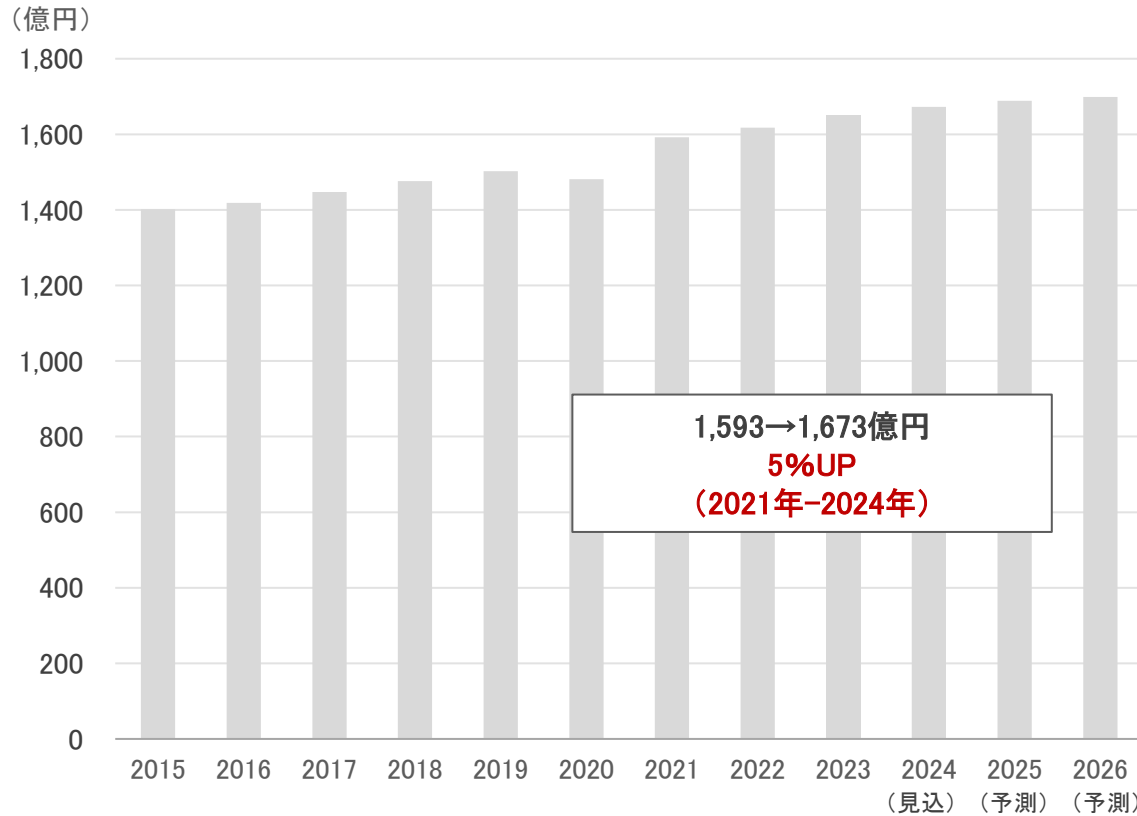
オールインワンの国内市場規模推移



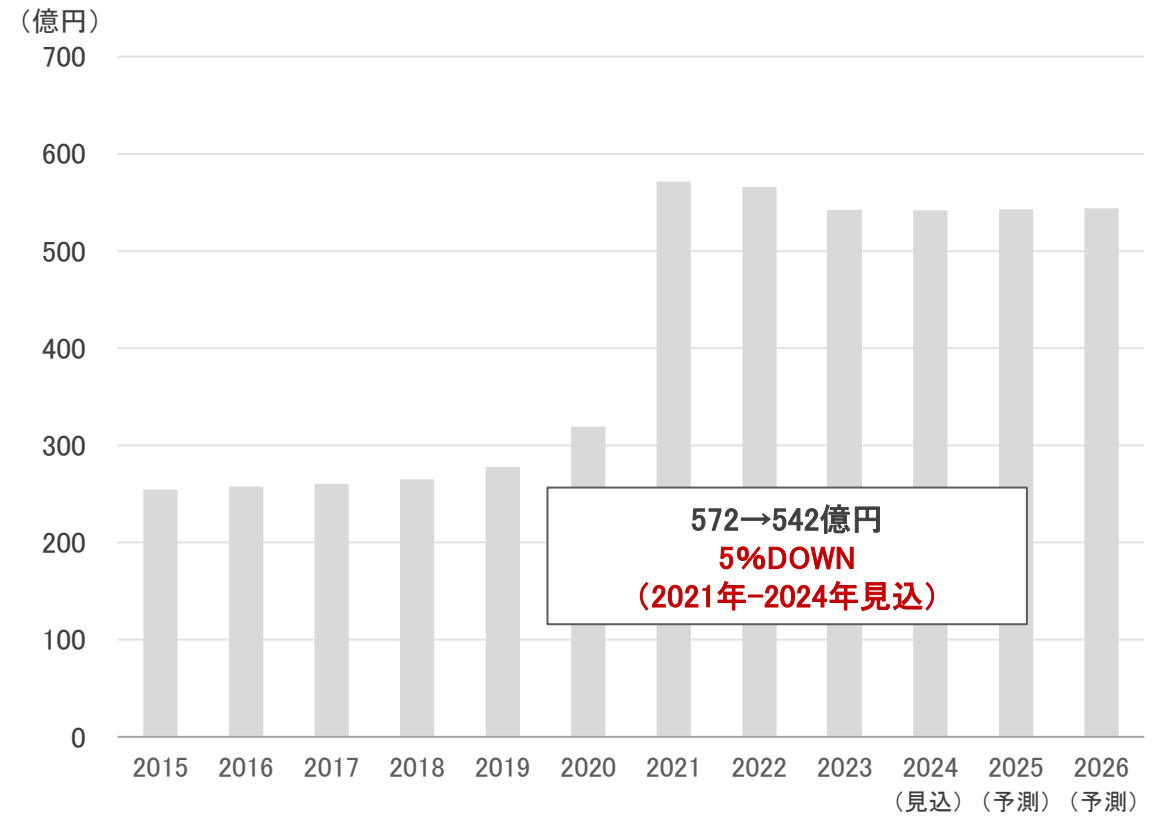
## ヘアカラー・女性用スカルプケアの国内市場規模推移

- ✓ ヘアカラー市場は、2022年以降、利便性の高い白髪用カラートリートメントの新規参入もあり好調に推移
- ✓ 女性用スカルプケア市場は、コロナ禍以降、在宅時間が増え、スカルプケアに対する意識の高まりにより急拡大

### ヘアカラーの国内市場規模推移



### 女性用スカルプケアの国内市場規模推移

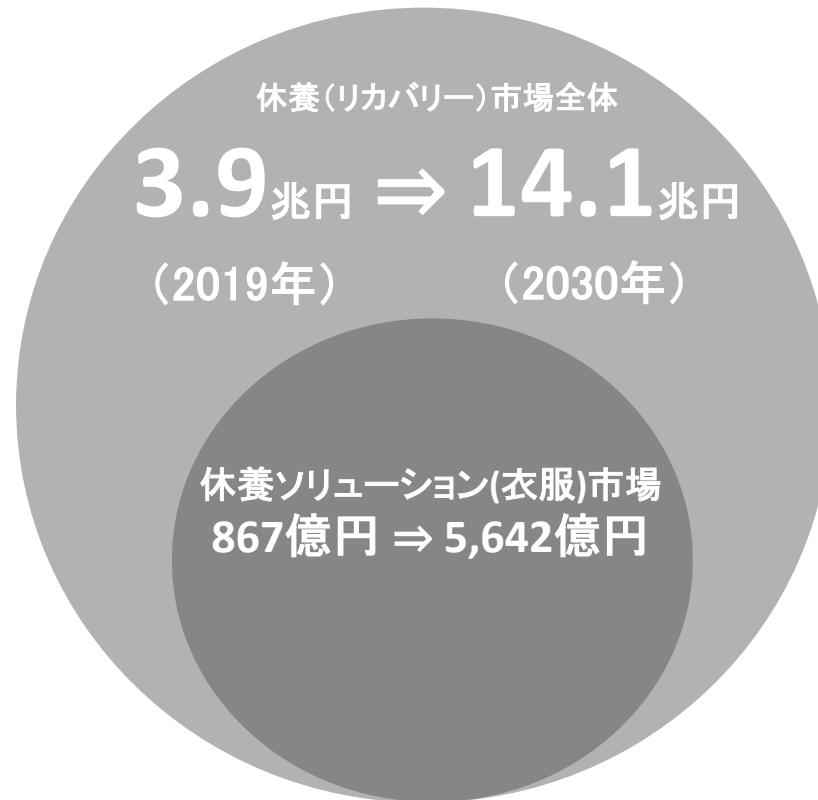


出典: 富士経済「化粧品マーケティング要覧2024 No.2」

## リカバリーウェアの国内市場規模推移

✓ リカバリー市場は、2019年から約3.6倍、休養ソリューション(衣服)は、約6.5倍と高い成長が期待される

### リカバリーウェア市場の国内市場規模推移



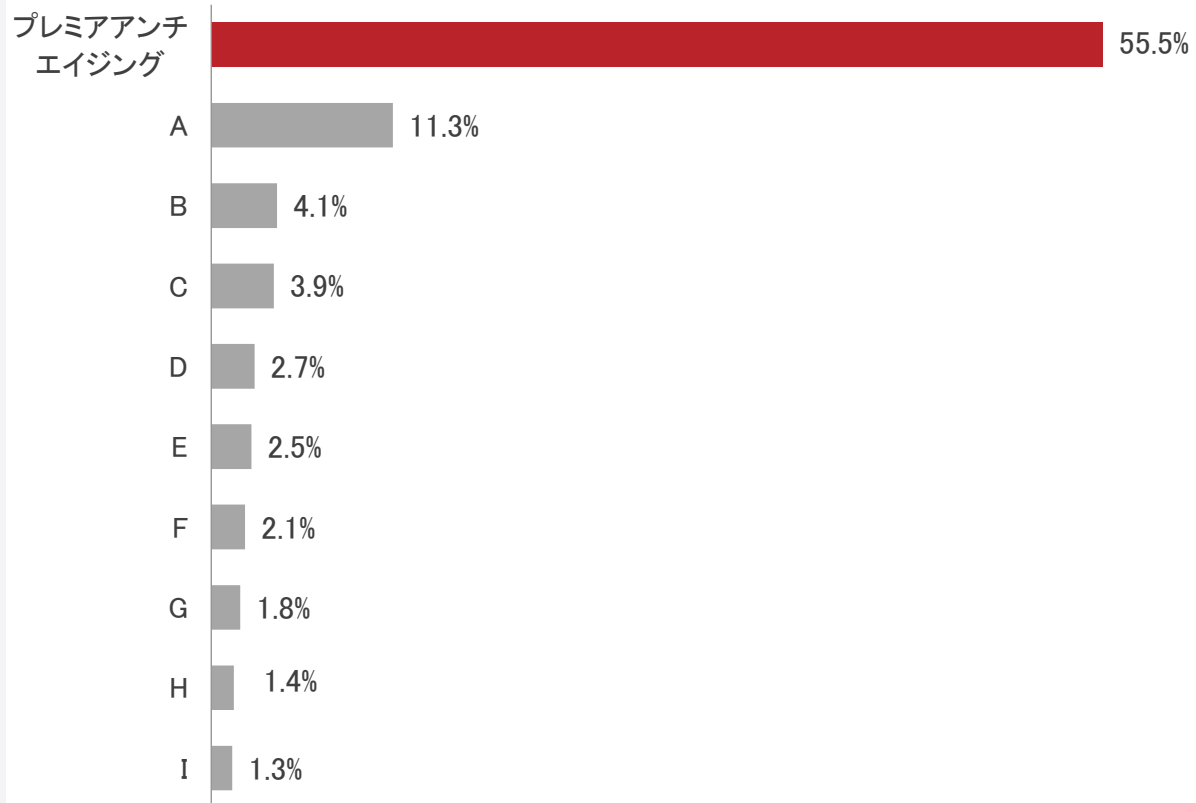
\* 休養週間推進事務局「神奈川県 未病産業研究会と連携し、日本初、健康の3要素「休養(リカバリー)」の市場規模を推計 2030年休養(リカバリー)市場は14.1兆円に



## クレンジング(バーム剤型)及びオールインワンのブランドシェア

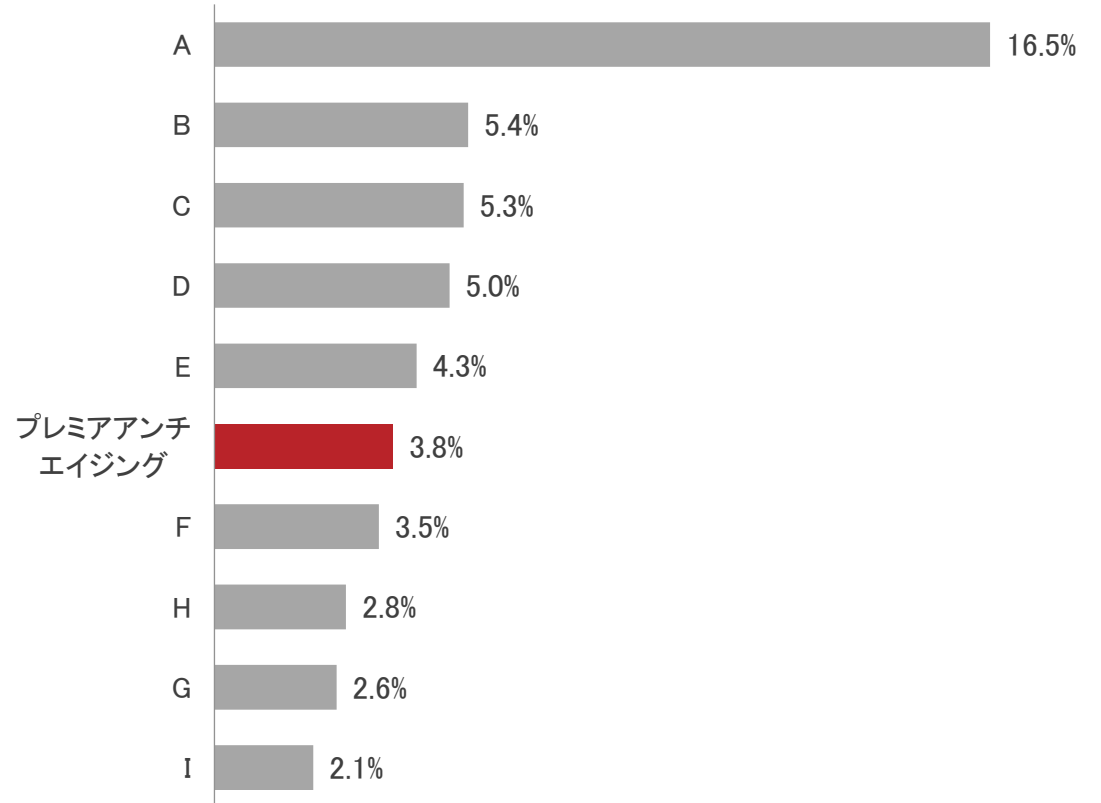
✓ デュオの属するクレンジング(バーム剤型)及びカナデルの属するオールインワンで競争力のある地位を確立

クレンジング(バーム剤型)



出典: 富士経済「化粧品マーケティング要覧2024 No.1」クレンジング(バーム: ブランドシェア)2023年

オールインワン



出典: 富士経済「化粧品マーケティング要覧2024 No.1」モイスチャー(オールインワン: ブランドシェア)2023年

## サステナビリティ基本方針

- ✓ 2023年4月、当社グループのサステナビリティに関する基本的な考え方を示す「サステナビリティ基本方針」を制定

### ～Uniqueな人生を実現する～

Enabling unique pathways through life

『Forever vivid 人の<sup>とき</sup>時間を、解き放つ。Untether time.』

人生 100 年時代を迎えた世界で、  
年齢や性別に対する先入観から解放され、  
自分に自信を持つ“アンチエイジング”という価値観のもと、  
一人ひとりが好奇心を持って新たなことにチャレンジできる世界を目指します。

そのために、型にはまらない柔軟な発想力を発揮し、  
世の中を変えうる Unique な価値を提供することで、  
様々な社会課題にステークホルダーとともに向き合い、  
いつでも、いつまでも輝ける持続可能な社会の実現に貢献します。

## 免責事項及び将来見通しに関する注意事項

- ✓ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ✓ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- ✓ 成長の実現や事業計画の遂行に重要な影響を与える可能性があるとして認識する主要なリスクとして、通販化粧品市場の動向に影響を受けることがあります。積極的なプロモーションの推進や顧客の潜在ニーズを探り、商品企画に活かすことにより、当社製品の競争力を維持することに努めております。また、その他のリスクについては有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

【お問い合わせ先】  
コーポレートコミュニケーション本部  
mail: [ir@p-antiaging.co.jp](mailto:ir@p-antiaging.co.jp)

# Forever vivid

とき  
人の時間を、解き放つ。

Untether time.